

■令和5年5月1日 定例記者会見内容

- 1 日時 令和5年5月1日（月）11：00～12：00
- 2 場所 市役所本庁舎3階第3委員会室
- 3 出席者 ○市長、総務部長、企画部長、教育次長
市長公室長、企画調整課長、スポーツ振興課長
○酒田記者クラブ10社（朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、
山形新聞、荘内日報、NHK、山形放送、テレビユー山形、さくらんぼテレビ）
○コミュニティ新聞社（記者クラブの承認により出席）

■市長発表事項

- ・特に無し

■代表質問

1 アランマーレ山形V1昇格について

記者／アランマーレ山形がV1に昇格を果たしました。市長の受け止めは、コメントでも当時いただきましたけれども、改めてお願いいたします。

市長／ご存知の通り、私も2日間入れ替え戦の時に、長岡に行って応援して参りましたので、今回、V1に昇格を決めたということで大変嬉しく思っておりますし、本当にファンの皆さんと一緒にこの喜びを分かち合いたいなど、こんな思いを持っております。

来シーズンV1ということになりますので、もちろん、好成績でV1の中で活躍していただきたいですし、この酒田を本拠地にしているということについても、大いに発信をしていけたら、この街にとっても、元気づくのではないかなど、そんな思いを持っているところであります。

記者／今、お話がありました酒田を本拠地ということもありましたが、V1昇格に際しての懸案事項であるV1の試合可能な体育館の市内への整備について、これはどのようにお考えでしょうか。

市長／前々からこういう話はあったのですが、V1リーグのライセンス交付規則というのがあるのですが、その中でいきますと、アリーナの入場可能者数が3,000人以上必要だということになっています。

そういう意味では、何としても酒田としても、そういうアリーナが欲しいなという思いはずっと持ち続けてきたわけでありまして、ご存知の通り、現状としては酒田市にある国体記念体育館は今のところ1,000席ちょっとということで、この条件を満たさないわけですね。今回V1リーグに上がるにあたっては、何としてもそういう体育館を整備したいという思いは、非常に強くあります。

ただ、この財政力と言いましょか、財政のことを考えますと、とてもじゃないけれど、それだけの大規模な体育館を作る能力は、酒田市にはないわけでありまして、いろいろな機関の力を借りながら、何とか作れる環境に持っていければいいかなど、そんな思いを、この4月はずっと持ち続けて、いろいろなところとお話をさせていただきました。

令和5年度、今年度については、山形県総合運動公園総合体育館については、今はちょっと工事中で使えないのですけれども、そういう条件的には満たしているということですが、来年度以降ですよね。これについては、実は日本バレーボールリーグ機構では、新しいV1リーグに在籍をする条件みたいなものが、組み直しになるというふうに伺っております。

新しいライセンスのもとでは、男女各2部構成にする方針であるという報道が出ているようですけれども、その中で、ずっとその1部に残り続けるためにはですね、もちろん強いということも条件になりますけれども、環境整備の面でも、その条件を満たす施設を持ってないと本拠地にならないのではないかなという、実は危惧を持っております。

新しいクラブライセンスの要項が、5月中に決定をするというふうに伺っておりますので、それを見ながら、酒田市として、本拠地として名乗りを上げるためにどういう環境を作ることが必要なのか少し議論をした上で、施設について言うと、一定程度の規模の施設が必要だということであれば、プレステージ・インターナショナルさんとか、それから関係する山形県さんとか、色々なところと少し協議をしながら、その条件をクリアするような環境に持っていけるかどうか、詰めて参りたいなとこのように思っております。

内部的には、このくらいの面積があれば、酒田市の中にこういう体育館が作れるよねというところは、いくつかピックアップをしながら、それぞれのエリアの持つハードルを今、潰しているというのが現状でして、具体的にこの場所にこのくらいの建物を何億くらいかけてというところまでは、まだ計画プランを練り上げられていないというのが現状であります。急いで検討を進めて参りたいと思います。

記者／全く同じことを聞くことになるかもしれませんが、地元の自治体として、どのような支援とか応援を今後していくか、現在の方針、また改めてありましたらお願いします。

市長／アランマーレ山形には、後援会組織がありますので、これからの応援組織をどうするかですとか、応援の中身、或いは市民を巻き込んだ形での応援体制みたいなものをどうするかというものを、しっかり詰めていきたいと思っております。

やはり、先だって長岡にも行って参りましたが、やはりV1リーグにいるチームは応援が上手ですね。組織立ってきちっと調和が取れた応援をするという面では、大変勉強になりました。酒田市民を巻き込んだ形で、それがどのような形でできるか、これもプレステージ・インターナショナルという企業とも十分連携をとりながらやらなければいけないですし、先ほど申し上げましたが、後援会組織もありますので、そこと協議をしながら、酒田市として応援体制それから具体的な支援措置として何を組めるかということについては、これから考えていきたいと思っております。

今月、酒田祭りがございます。20日ですけど、山車行列というのがありますが、この山車行列の中にアランマーレ山形の皆さんからも参加をしていただいて、アランマーレ山形がV1リーグに行くのだということ、市民の皆さんにも徹底をしたいですし、市民からも、おらがまちのおらがチームだというふうな思いを持っていただくための環境を少しずつ作っていききたいな、そんな思いを持って参りました。

記者／先ほど体育館の話があったのですけれど、今の話の形ですと、新しい体育館を建設できるのがベストというようなお考えでいらっしゃいますか。

市長／はい。ベストだと思います。

多分、そういう新たなVリーグ機構というのでしょうかね、そういう施設に対する条件は、1部リーグに在籍するクラブライセンスの要項の中に、そういうのがついてくるのではないかなという感じがあります。また、全ての試合が天童市の山形県総合運動公園総合体育館に行くしかないということではですね、やはり酒田市民としても納得できないでしょうから、そこは酒田市内の中に何とか整備できればいいかなと、そういう思いを強く持っております。

記者／先ほど言った酒田市だけだと財政力がという話は、それは民間の力も借りるということでしょうか。

市長／そうですね。民間とか山形県の力もお借りしないと、なかなか実現は難しいかなと、そういう思いを持っております。

2 市体育館（スワンスケートリンク）の廃止と代替施設確保の見通しについて

記者／酒田市体育館スケートリンクの廃止というのがありましたが、こちらの概要と、代替りの施設の確保の見通しについてお聞かせください。

市長／この酒田市体育館の廃止につきましては、実はその経過を少しご説明申し上げますと、スポーツ競技団体等から推薦いただいた8名の委員の皆さんによる体育施設整備懇談会というものを、昨年度2回開催しております。

委員の皆様からの意見聴取後に、関係部課長による庁内検討会議というものも2回ほど行いまして、今年に入ってからになりますけれど、2月に私が委員長であります公共施設経営検討委員会におきまして、この酒田市体育館と冬場にその中でやっていますスワンスケートリンクですね、これについては、令和5年度末で廃止をするという決定をさせていただいたところでございます。つまり、来年の3月まではやるけれども、それ以降はもう廃止にするということになります。

酒田市体育館は、やはり耐震性もないですし、かなり傷んできておりますので、これ以上使うということになりますと、もし、万が一事故があったときに、市として責任を問われるということもありますので、やはり、ある程度期限を区切ってピリオドを打って、新たな施設を整備するかどうかについては、また考えていかなければいけないわけですが、まずは廃止をするという判断をさせていただいたところでございます。

スワンスケートリンクについてですが、従ってこれも来年の3月で店じまいということになるわけですが、ただ、小学校中学校、ご家族の皆さんも含めて、冬場のスポーツ、屋内スポーツですから、天候に左右されずにスポーツを楽しめる唯一のスポーツだということもあって、存続を要望する声もかなりあります。

かつて、多くの子供たちから使ってもらった時は、コロナ禍前ですけれども、2万人近い人たちが半年で使っていたという経緯もありますので、そういう思いもあって、

存続の声が高いのも事実でございます。

スケートリンクにつきましては、庄内地方重要事業要望、これは庄内開発協議会で行っている重要事業要望でありますけれども、何とか庄内空港周辺に県営の屋内スケートリンクを整備してくれないかということで山形県に要望する予定であります。

今月、開発協の要望活動がありますけれども、その中でも県営の屋内スケートリンクの整備を県の方に求めていきたいと。

県でも、県内に整備をしたいという動きがあって、山形市でも検討しているようではありますが、庄内でもそういう声を上げていきたいなと思っております。

ただ、仮にですけれど、これが具体的に県の計画に載ったとしても、事業計画をまとめて設計をして建設をしてとなると、やはり相当年数がかかるのだらうなと思いますので、その間スワンスケートリンクという事業を休めるのかということについては、内部でも少し議論をさせていただきました。

その上で、その間、来年3月以降ですね、その次の冬のシーズン以降どうするのだということについては、どこかで継続できないかということについて、今、その場所とか、仕組みとか、スワンスケートリンクを継続してやっていける中身について、今内部で検討を進めている最中でございます。

どこかの施設を借りるだとか、臨時的にそこを使うだとか、いろいろなやり方があるかと思いますが、その辺については、今後協議をして、まだ少し時間がございますので、来年の秋以降の話になりますから、そのところを少し詰めた上でスワンスケートリンクの存続については考えていきたいなと、こういうふうに思っております。

記者／先ほど、庄内開発協議会の重要要望として上げていくということだったのですが、その要望書の屋内スケートリンクは通年型のものになりますか、そこまではまだ検討が進めていない段階でしょうか。

市長／県営ということでお願いしますので、我々もそうなのですが、通年でやるといっても、真夏の暑いときもスケート場を維持するのかというのは、現実的には難しいのかなと。維持管理コストの関係でですね。

従って、酒田市体育館でやっているように、冬場はスケートリンクだけれど、夏場は別の用途にするだとかということも、選択肢の1つには入ってくるかなと思います。

あのような施設は、建てるのはそんなに難しい話ではないのですが、やはりずっと維持管理するのに大変コストがかかるのですよね。従って、通年型というのは、ちょっと難しいのかなという個人的に私はそういう思いは持っていますけれども。一年中であればそんなところは他にはないので、日本国内でも非常に注目をされる施設になろうかと思っておりますけれど、現実的には難しいでしょうね。これだけ電気代とかそういうコストがかさばってくると。年間真夏の暑いときも、スケートリンクを維持するというのは、これはちょっときついような気がします。

記者／スケートリンクの方は県営というお話だったのですが、少し戻ってしまうのですが、先ほどのアランマーレ山形の方も、もしやるとしたら、あれはどういう仕組みを

想定しているのでしょうか。

市長／これはですね、いろいろな選択肢があるのですよね。

過去にこういうこともあり得るので、県の方に体育館を作ってくださいということで要望したことがあるのですが、それについては、県の方からは、それはできない、無理です、ということでお断りをされているので、実際の作り方、それから運営方法については、市とか、それから、プレステージ・インターナショナルですとか、或いは民間企業グループのお力を借りていかないとはですね、なかなか難しいかなと。

先ほども申しあげました通り、年間を通して維持しなければいけないということになりますので、その持っている方についても今後の検討事項になると思います。県単独、市単独というのは基本的には難しいと私は思っています。

3 県議選の結果及び市長選挙について

記者／改めて先日ですね、県議選の結果が出ました。酒田飽海郡の県議5人が決まったと思うのですが、まずこちらの選挙結果の受け止めをお願いいたします。

市長／大変な厳しい選挙だったというふうに、巷間で言われていますけれども、5名の皆さんが見事当選されたということで、ご期待を申し上げます。

山形県のため、そしてこの酒田飽海地区のためにですね、皆さん頑張っていたきたいなど、お力を貸していただきたいと、このように思っております。

さすが、日本一女性が働きやすいまち宣言をしているだけあって、女性お二方、強かったなど、そういう思いを持って受け止めさせていただきました。これから、県議会という中で活躍されることを心からお祈りしたいと思いますし、これからも酒田市と連携を密にして、この地域の発展のためにご貢献をいただきたいと、このように思います。

記者／こういった選挙結果でしたけれども、改めて、市長選に向けての進退について現時点での考えをお聞かせください。

市長／ずっと申し上げているのですが、このゴールデンウィーク期間中に、いろいろ私の取り巻きだとか、後援会の皆さんとも話をしながら決めていきたいなと思いますので、次の記者会見まで少しお待ちいただきたいなと思います。現状ではまだ、外に発信するような中身がないということで、ご理解をいただきたいなと思います。ゴールデンウィーク中に、一生懸命動きますのでよろしくをお願いいたします。

記者／今のお話ですけれども、この間もちょっとお伺いしたのですが、大体目途として、いつぐらいにはっきりするでしょうか。ゴールデンウィーク中に動くということは今おっしゃっていますけれども、それを、ある意味、公にするのはいつぐらいになりそうなのでしょうか。

市長／これもまだ確定したと聞いてないのですが、ゴールデンウィークが明けて、その次の週に私の後援会をね、拡大幹事会みたいのを開きますので、その中でしっかりと意見を集約して、皆様方にもしっかりとお伝えをしたいと、このように思っておりますので、もう1、2週間ちょっとお待ちいただきたいと、こういう状況です。

5 月中にはしっかりとした結論を出して、議会に対してもそうですけれど、市民の皆さんにも、自分の対応なんかをしっかりと示してきたらいいなと思っています。従って、5 月中ということで、今、皆さんからご理解をいただければなと思います。

記者／5 月中ということですのでけれども、要するに酒田祭りの後ということでしょうか。

市長／そうですね。その前後というふうなことでよろしいかなと思います。ゴールデンウィーク明けの次の週ぐらいまでには、何らかの結論が出ると、このように思っておりますので、酒田祭り前かもしれないですよ。

■フリー質問

1 改修中の国体記念体育館について（アランマーレ山形 V1 昇格関連）

記者／先ほどのお話に戻るのですけれども、アランマーレ山形の体育館の件だったのですが、今、改修中の国体記念体育館で、席数を更に改修して増やして対応するという事は可能なのでしょうか。

市長／結論から言うと、物理的には可能だと思うのですが、現実的には難しいという判断をしております。

といいますのは、なかなか 3,000 までには客席を増やすということが難しいのかなということと、それから 3,000 まで増やした時に、やはり他の付帯設備というのでしょうかね。例えば、トイレだとか、それから選手たちのシャワーとか、いろいろな試合に臨むにあたり調整をするスペースだとかですね、そういうものも入れると、今工事に着手しているわけですが、その微調整では多分済まないの、現実的には無理だという理解を今の段階ではしています。

従って、契約を変更したり、工事を伸ばしたり、改修の中身を変えたりというつもりは、今のところございませんので、それ以外の形で、やはり何か対応していかなければいけないのかなという、そういう考えを持っております。

2 ChatGPTの導入予定について

記者／先日、知事の会見でも出ましたけれども、ChatGPTが今、政府でも話題になっておりますが、こちらを活用する自治体とかが、全国でも手を挙げていると思うのですが、自治体として活用するかというのを、まずどう捉えているか、改めて酒田市としては、今後、活用する方針がありましたら教えてください。

市長／自治体としては、横須賀市でも使っているということで、運用ルールを定めた上で活用することとしている、ということをごさいましたけれども、酒田市としても新聞にも出ましたけれども、非常に興味は持っております。

ただ、庁内の中で、横須賀のような対応するかどうかについては、まだ正式には議論を進めていませんが、デジタル変革等を推進している本市ですので、本市としては、このChatGPTの活用についても、例えば市民サービスですとか生産性の向上に役立つものだと私は思っていますので、それが客観的にも確認できれば、導入に向けて検討をしてい

きたいなど、このように思っております。

実際、私もスマホは持っていますけれど、スマホとか、パソコン上では、C h a t G P Tは使えるわけです。

ただ、今、酒田市の中では職員に配布しているパソコンはありますけれども、これはC h a t G P Tは使用できない形になっております。セキュリティがかかっている関係で、インターネットにも簡単には繋がらないような状況になっていて、そういう関係で使えないのですが、管理職が使っているタブレットだと使えることは使えるのです。

ですから、公用として、いろんな場面で使えるような状況にはなっているのですが、やっぱり個人情報とか、公務上の秘密の情報などが、A Iから吸収されないことがないような、一定程度のルールが必要だと思っています。

まず使い方については、しっかり、ある時期に職員の皆さんにも研修をしながら、その活用について、ルール化をしていきたいなど、このように思っています。

私個人としては、実は、3月からC h a t G P Tなるものを知ったので、正直使っているのです。

私が思っているのは、物事の過程だとか、その経過を重視するような、そういうような分野では、やはり使い方は注意すべきだろうなと思います。

具体的に言うと、例えば教育。子供たちの学習だとか、その教育、スポーツだとか、ある意味、修行や修練みたいなものが必要な技術習得の分野です。こういうものは、逆に、マイナス面があるのではないかなと思いますけれども。

ただ、結果とか効率を重視するような分野ですよね。例えばビジネスだとか、公務。市役所とか公務員の世界も、一部そういうところはあると思うのですが。

そういうところは使っていった方が、時間短縮になるし、とにかく、たたき台を作る道具としては、すこぶる優秀な、私はツールだと思いますので、大いに活用すべきではないかなと、このように思っています。

問題なのは、そのたたき台を使って、その人間が、人間としてどう行動するべきか、というところをしっかりと議論する。そちらの方がこれからは大事だという、そういう社会的な評価を求められるのだらうと思います。

本当にその人間しかできない、付加価値を生むような高い仕事を、A Iを使ってやることができたら、それが、これからの社会の方向としては、そういうふうに進むのではないかなと。

インターネットが出てきたときのようにですね、こういった仕組み、仕掛けが、逆方向の使わない方向に行くというのは、多分ありえないと実は思っています、その便利な方向に、世の中はどうしてももう動いているので、それはもう、不可逆的に進むこの流れは、抑えられないと思います。

従って、法整備だったり、いろいろなルールづくりで、いかにそれが人間社会にとって有益に機能するか、そういう道筋を模索して、大いに使っていくのだらうなど、そういう思いを持っております。

要するに、そういう面では、アイデア出しや、そういうもののツールとして、どんどん活用する。それが、このChatGPTのプラス面ではないのかなと、こう思います。記者／ちなみに先ほど市長が3月から使っているとありましたが、実際使った場面というのは、どういうのがありますか。

市長／私は今、一番興味があるのが、量子力学です。量子力学って分かりますかね。

特に「量子のもつれ」と言っていて、量子力学自体が分からないものですから、量子力学とは何かとか、「量子のもつれ」とはどういうことなのかというのを、インターネットで見ても、答えが出てくるのですけれど、よく分からないのです。

それで、1回ChatGPTに投げかけをしてみましたら、一応答えが出てくるのですね。でも、それでも分からないから、「もうちょっと、これって、どういう意味か分かりやすく説明してよ」と投げかけますと、かみ砕いた答えでまた出てくるのですね。

でも、「これっておかしいのではないですか」、というふうに疑問を投げかけると、またそれに対する回答も出てくるのです。

それで、やりとりで20何項目もやりましたけれど、それでもよく分からないのですが、20何項目のやりとりをすると、中学生くらいでも分かるようなレベルの会話の文章で答えが出てくるとは、これはすごいなと思います。

インターネットのグーグル検索でそんなことをやっていたら、とてもじゃないけど、なかなか思い通りの結論に導き出せないのですけれども、ChatGPTのすごいところは、そういうところかなあとと思います。

対話でもって、聞く側のレベルに合わせた文章表現で、いくらでもたたき台が出てくる。と、いうのは、それでもって難しいことへの理解が少しでも進むという、そういうツールが出てきたというのは、すごいことだなと思いますね。

3 市内中学校の生徒が自死した問題の関連について

記者／先週、一部の報道で出ている酒田市の中学生の自殺問題に関連してなのですからけれども、この女子生徒の関係者を相手取って裁判を起こして、というのが先週から記事にもなっております。それと、これとは別に、刑事の方でも他の方を訴えて、一部の方にはもう罰金刑が出ているという話も出ているのですけれども、この辺りの酒田市としても、事案の把握と、受け止めといっても難しいかもしれませんけれども、こういったことが今、市内で起きていることに対する受け止めをお聞かせいただけますでしょうか。

市長／私も実は報道で知ったというかですね。そういう状況です。

当事者ご本人からもそういう話を聞いたわけでもないのですけれども、今回のこの中学生の事案に関して、名誉毀損とか、侮辱罪の問題に発展して、書類送検になったということ。これは報道では知ったわけですからけれども、もう大変残念なことだなと、このように思います。

私自身も、例えばネットなんかで見ますけれども、こういう情報がどうして流れるのか、というのは、実は疑問は持っていたのです。だけど、こういう問題に発展したことについて

ては、本当に残念だなと思っていますけれども、しかし、我々としては、そこには直接関与もしてないので、それ以上のコメントはちょっと出しようがないというのが現実です。

私どもは今、再調査委員会を粛々と進めている最中ですのでございまして、このこと自体が、再調査委員会に影響を及ぼすということは多分ないと思います。

まずは、我々はその事実をしっかり調査をして、それを解明することで、二度とこの地域からそのような同じような事案が出ないように、そういう環境を作るために今、再調査委員会の皆さんから、汗をかいていただいているということでございますので、その流れを粛々と見守って参りたいなど、このように思っています。

再調査委員会につきましては、なかなか情報を皆さんの方に出してないのですが、今、ヒアリング調査を進めているわけでありまして、これまで10回開催しました。

5月中に栗山委員長による記者の皆様に対する進捗状況の報告、これをしっかり時間を持つということで伺っておりますので、その時に、経過等について皆様の方にはお話をしたいなど、このように思っております。

総務部長／あくまでも、再調査委員会として客観的に、ヒアリング調査をしながら事実認定をしているというところがございますので、そのことが、今回の報道によって何らかの影響があるということは考えにくいということでございます。

これまで、ヒアリング、中学生を含め、10回の委員会を開催してきたところでございます。今後まだ、ヒアリングが残っておりますけれども、一定程度、時間が経ちましたので、5月中には進捗状況の報告をさせていただくということで考えておりましたので、よろしくお願いいたします。

記者／今日、ちょっと教育次長もいらっしゃっているので、教育委員会の立場から伺いたいのですが、市長は、報道で今回の事案を知られたということですが、いわゆる学校とかそういうところには、相談があったのかなというふうに考えるのですが、生徒さんに対するケアとか、今回、その辺りというのは、どういうふうにしてこられたのかをお話いただきたいと思います。

教育次長／ただいま、市長、それから総務部長からもありました通り、教育委員会といたしましても、報道で今回の事実を知ったという状況でございます。

ケアというのは、どなたに対してのケアでしょうか。

記者／いわゆる、今回、ネットで誹謗中傷されたことによって、少なくとも辛い思いをして学校に通っていたと思うのですが、そういうことを相談されたのではないかなと推察はしているのですが、そういう生徒さんに対してのケアは、学校ではしていなかったのでしょうか。

教育次長／今回の事案で心を痛めた生徒、或いはその他の方というのは、たくさんいらっしゃると思いますので、教育委員会としては、きちんとそのケアは対応してきたというところでございます。

記者／今の中学生の、自殺の再調査委員会の件についてだったのですが、今月中に一度、ご報告いただけるということで話を伺ったのですが、それはまた、リモートという

形なのか、それとも、こちらで委員会を開催されてなのかというのは、どちらでしょうか。
総務部長／どちらの場所で開催するか、実はこれから次回の打ち合わせ、どういうふうに進めていくかを含めての打ち合わせのタイミングの再調査委員会で、そのぶら下がりという形での記者会見を予定しておるといふことですが、そこは、東京であればリモートになりますし、酒田に来ていただいているときであれば、そのままお話をさせていただくということで、いま現在調整中でございます。

記者／分りました。今月中とは、時期としてはいつぐらいでしょうか。

総務部長／なるべく早くと思っておりますけれど、後半になるかもしれないです。

4 アランマーレ山形V1昇格に係る体育館について

記者／体育館の件で、確認させていただきたいのですけれども、過去に、県の方に体育館の整備をお願いしたというのは、過去というのはいつのことでしょうか。

市長／令和元年7月です。

記者／どういったタイミングになるのですか。

市長／酒田市の重要事業なのですが、開発協議会の重要事業とはまた別に、毎年、酒田市の重要事業というのを定めて、県の方に要望をしております。

この件については、庄内総合支庁に持っていくと、総合支所長とか幹部の皆さんが出てくるのですけれど、その方からは、県の方では、県営の体育施設を作る計画は全くありませんという回答でした。

それから、知事に要望にも行きました。これは確か、酒田北高校、工業高校の跡地がありますが、あそこの活用が、実は我々の課題でもあったので、知事要望の際に、知事に直接要望をした時も、同様にアランマーレ山形が1部リーグに上がったときのために、ということも我々は伝えたのですけれど、県としてはちょっと難しいという形で、その場でも実はお断りされているのです。

記者／公式な要望ですか。

市長／公式な要望です。

毎年、酒田市の重要事業、何十項目と言っていいほどあるのですけれど、知事に要望する際には、1項目とか2項目とかそのぐらい絞ってくださいと言われていて、7月に時間を取っていただいて、事業要望に行きました。

実は、酒田市のこれまでの要望は、どちらかという港の要望なのですよね。令和元年当時は、いわゆる洋上風力とか基地港湾の関係で、何とか基地港湾選定を得られるように、県の方から頑張っただけという思いでした。港湾の管理が山形県ですからね。

そういう面では要望に行った際に、もう1件ということで、ちょうど北高校、工業高校の跡地というのは、港湾の背後地に近いものですから、特に国道7号にも近いし、高速道路の港インターにも近いということで、広域的な県営施設、特に体育館を作るには、県としても、広域的な活用が図られるという意味で、いいのではないかという話を含めてお願いをした経緯がございます。あそこは県の土地ですし、県立高校の北高校と工業高校の建

物が残っているじゃないですか。そういうところを少し頭に描きながら、何とかできないですかねと、話を要望させていただきました。

記者／令和元年7月、庄内総合支庁にも同じ時期にということですか。酒田北高校と工業高校の跡地をという、そういうことでの要望だったのでしょうか。

企画部長／その当時はそうです。

記者／知事に対しても、ということですね。

企画部長／はい。

市長／結局、県の要望って、最初、庄内総合支庁要望があって、次の段階で知事要望があるのです。庄内総合支庁への要望は大体5月です。

記者／そうすると、その時には難しいという回答をもらって、そのまま再要望しているということはないのですか。もう、その年でだけで終わっているのでしょうか。

市長／ずっとやっているのですが、はっきりそう言われたものですから。去年も要望しているのです。酒田市の重要事業にもまだ載っています。開発協にも実はあったのです。開発協の要望事業にも、鶴岡は県営サッカー場、私どもは体育館ということで載っていたのですけれど、今年は難しそうだねということで、1つにして、さっき言ったスケートリンクの話にちょっと合体をしております。

酒田市の重要事業要望としては、前もその後もずっと継続しています。

記者／スケート場に関しては、今年初めてということなのですか。

市長／今年、初めてですね。

記者／酒田市だけではなくて、鶴岡市も含めて、庄内全体で要望するということですか。

市長／はい。鶴岡市は、サッカー場がいろいろといきさつがあったようですけど、県立病院の跡地に鶴岡市が整備するということで、少し方向性を変えました。

私どもも、ずっと体育館については難しいと言われてきていたので、そういう面では、共通項からすると、県で施設を作ってくれるという方向性が今、少し出ているのは、スケートリンクということで、そちらに少し方向性を変えました。

体育館を、開発協から下ろしたのだけれども、そのすぐ直後に4月に入ってからV1にいったわけですよ。

ですから、酒田市の重要事業としては継続していますけれども、庄内開発協議会の要望からは少し、方向性をずらしたということになっています。

記者／ただ、なかなか1つでも難しいのに、2つをお願いするというのは、難しいかなと思いますが、市の方で今回事情が変わったということですよ。アランマーレ山形が昇格したということで。先ほど複数プランというのかな、今精査しているというのは場所ですか。

市長／そうですね。

記者／北高と工業の跡地以外にも、検討されているところはあるのですか。

市長／いくつかあります。北校、工業高校の跡地は何がハードルかという、校舎が残っているということですよ。

鶴岡の方も話題になりましたけれど、その解体費用をどうするのかと。本来であれば、県の土地だし県の建物なので、県が解体費用も全部持たなければいけない。現状、工業高校の解体については、県が去年から計画的に少しずつやっていますけれど、いつ終わるか分からないくらい大きな建物がありますし、北高も校舎があると。現状として、光陵高校も、北校の敷地はまだ使っているのですよね。まだ、部活で。

現状、使っているということもあって、それなりにハードルも少しあるということなので、簡単ではないと思います。ただ、空いている土地があるという意味では、そこは使い勝手がいいのかなということ、県から何とか施設を解体してもらって、土地を提供してもらって、県から作ってもらえればそれはベストだと思います。ただ、そうはなかなかいかないだろうということで、市と県と民間とでコラボで作るとか、そういう手法なども少し描きながら、土地は、そこは県の土地なので、そういった案も1つありますし、他のところも、ここならばこういう作り方、ここならばこういう作り方が考えられるよね、ということで、今、実は案を練っている最中です。

記者／これは何か新しいそのプロジェクトチームとか、立ち上げた上でやっているのですか。

市長／今は、企画部が中心となって、いろいろなアイデア出しをしています。

それこそ、おそらく、こういうときにChatGPTとかが機能するのですよ。「そういうふうな体育館を作るには、どういう手法がありますか」と問い合わせると、だだっとなってきます。

その中で、酒田市にあったやり方とか、或いは県を巻き込んでのやり方というのは、我々が考えて、具体的に現実的な方策、アイデアを組み立て直していくという作業を、今、一生懸命やってもらっていると思いますけれど、そういうやり方ですよ。

記者／体育館の流れで一応確認です。国体記念館は、もともと最初から、最終的に3,000席が必要というのはなかったのでしょうか。

市長／現状では1,000席しかないのです。V2ならば、何とか予備も入れたりして、今もやれているわけですが。まさか、この4月にV1を決めるという、それは決めて欲しかったのですけれど、本当にまさかの世界だったのでね。この間、アランマーレ山形の皆さんが表敬に来た時も、木村キャプテンから言われましたよね。私たちは約束を果たしましたと。次は、酒田市長が約束を果たしてくださいと言われましたので、これは非常に厳しいコメントだったと、実は思っていました、何とかしなければという話は、その時に改めて心に刻んだのですけれど。

ずっと、県だけでなく、プレステージ・インターナショナルの玉上社長とも、V1に行ったら、きちんと整備しなければとずっと相談をしてきたのですけれど。

まさか、こんな現実のものになるということについては、少しびっくりしたと、それくらい驚きが嬉しかったという面もあるのですけれど。

国体記念体育館はやはり、基本的に3,000席は無理だと。やはり、どんなに可動式の臨時的な観客席を作るにしても、ハードルは厳しいよねということが1つ。

それから、ご存知の通り、土門拳記念館を設計した谷口先生の、ある意味、芸術作品に近いものですから、勝手にその機能増を、我々の思いだけで増設もできないので、かなりハードルが高いよねというところが、前々からもありました。

やはり現実的に、こういう国体記念体育館に3,000席を持ち込むような改造とはどうだろうかという話を、少し案として持って相談をしたけれども、やはり、先ほど言ったように、トイレだとか、いろいろな改修が出てきたときに、谷口先生の芸術作品である国体記念体育館に手をつけることになりますから、そこは時間的にも金額的にもかなり大がかりな変更が出てくると、これはやはり、いまいまのV1リーグには間に合わないなという思いがありましたので、その選択肢は実は諦めたというのが実情です。

記者／それはもう当初から、今回の改修工事を決めたときからそういうふうな思いであったということでしょうか。

市長／難しいだろうなという思いがあったのですけれど、現実的に急がなければということになって、実際に試算をしたり相手方に相談をしたりした時点では、やはりちょっとこれは難しいかなということで、無理だという、一応結論を出させていただきました。

■その他

配布資料／第12回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会の募集のお知らせ